

地研通信

発行人 尾崎 正利
 編集人 東福寺 一郎
 発行所 三重短期大学地域問題
 総合調査研究室
 津市一身田中野157番地
 〒514-0112 TEL(059)232-2341

題字 岡本祐次元学長

2001年地域問題総合調査研究室研究員

(研究期間 2001年4月～2002年3月)

個人研究

- 尾崎正利 「契約労働と移住労働力」
 東福寺一郎 「津市民の男女平等に関する意識調査」
 水谷 勇 「少子化時代における保育と育児支援のあり方について」
 森岡 洋 「産業連関表による三重県の環境分析」
 岩瀬充自 「部落差別の研究」
 正田敬志 「環境の総合的研究」
 茂木陽一 「近世近代移行期、三重県域における人口動態の研究」
 岡本祐次 「三重県における中小企業の賃金実態と最低賃金(継続)」
 秋永紀子 「三重県における女子学生のヘルスプロモーションにおけるヘルスプログラムの作成および食教育に関する研究」
 岩田俊二 「津市中心市街地の活性化主体形成手法に関する研究(継続) - 大門・立町を中心に - 」
 丹羽啓子 「高齢者保健福祉施策をめぐる現状に関する研究 - 要介護認定外高齢者への対策 - 」

奨励研究員 冬木春子 「仕事と家庭の両立のための育児支援に関する研究」

2001年度 地研事務局体制

室長	尾崎 正利
事務局長・地研通信担当	東福寺一郎(法経科地研運営委員)
会計	水谷 勇(生活科学科地研運営委員)
図書担当	冬木 春子
事務局・助手	松本 環

【研究概要】

個人研究

研究者名	研究課題	研究概要
尾崎正利	契人労働と移住労働力	アウトソーシング下における雇用構造について、構内下請事業が及ぼす雇用構造への影響を、移住労働力との関わりで、とりわけ地域労働市場政策立案との関わりの中で調査し、分析の結果を踏まえて、一定の政策提言を行う。 対象地域は東海とし、構内下請事業に雇用される移住労働力について、国外にわたる就労経路、国内就労経路を中心に調査を行う。
東福寺一郎	津市民の男女平等に関する意識調査	－昨年実施した意識調査の第2回目。この間、男女共同参画へ向けての整備が進みつつあるが、意識面での変化が生じているかを確認することを目的とする。前回同様、郵送法により、500名の市民を対象に実施する。

水谷 勇	少子化時代における保育と 育児支援のあり方について	名古屋市中村区と鈴鹿市を事例に認可園、無認可園（共同保育所など）の実態とそれぞれの保育者、父母の要求を把握し、新エンゼルプランのもと、進められつつある保育・育児支援行政のあり方（現状と問題点）を探りだしたい。
森岡 洋	産業連関表による三重県の 分析	経済活動と友に、二酸化炭素などの汚染物質がどのように発生しているのかを、産業連関表を使って分析する
岩瀬充自	部落差別の研究	昨年度、部落差別の調査をした結果、三重県では広く部落差別意識が残存していることが判明した。今年度は部落差別の法的規制の諸問題について研究する。
疋田敬志	環境の総合的研究	・ 部疋田ゼミ生とここ2年続けてきた環境（水と環境、生活環境保全条例、廃棄物行政など）の調査研究を集大成したい。 本年度こそ、研究をまとめ、論文発表したい。
茂木陽一	近世近代移行期、三重県域 における人口動態の研究	今年度は、特に掛り人・厄介といった家族構成員以外の被扶養者のあり方を中心に幕末から明治期の動向を検討する。
岡本祐次	三重県における中小企業賃 金実態と最低賃金（継続）	三重県内の中小企業（とりわけ零細企業）の賃金実態を調査・分析して、地域別ないし産業別最低賃金が、どのようにリンクしているかを引き続き検討する。
秋永紀子	三重県における女子学生のヘル スプロモーションにおけるヘルスプロ グラムの作成および食教育に 関する研究	三重県的女子学生の食生活実態とそれを取り巻く環境およびそれに至るまでの各発達段階ごとの食生活歴や、栄養状態を客観化するための栄養状況の把握、栄養アセスメントおよびQOLから、個人の栄養状態を客観的に分析評価して検討する。その目標値が国民栄養調査成績や三重県のデータおよび他府県の女子大生などの実態および文献値などと比較し、検討し、望ましい栄養目標を作成する。
岩田俊二	津市中心市街地の活性化主体 形成手法に関する研（継続） - 大 門・立町を中心に -	2カ年にわたり、津市中心市街地の活性化手法について研究してきており、その継続として、今回は大門・立町地区に絞って、地元住民や商店主等を対象に活性化主体の形成手法について研究する。
丹羽啓子	高齢者保健福祉施策をめぐる 現状に関する研究 - 要介護認定外高齢者への 対策 -	介護保険が施行されて1年が経過するが、高齢者福祉領域においていくつかの問題が出てきている。その一つとして、要介護認定から外れた高齢者への対応の不十分さがあげられる。介護保険制度のもとでの要介護認定から外れたとはいえ、高齢期においては何らかの生活支援が必要となってくる。また、国の政策目標としての「ゴールドプラン21」においては介護保険における要介護認定からもれた高齢者を「元気高齢者（ヤング・オールド）」として、健康づくり、介護予防、生きがい活動支援などに積極的に取り組んでいくことを提示している。 本研究では、こうした国の政策動向を受けて、市町村においては、現在どのような介護予防等の高齢者保健福祉施策が行われているのか、また今後どのような介護予防等の施策を講じようとしているのか、という点を明らかにしていきたい。その一方で「元気高齢者」はどのような生活支援を望んでいるのか、そのニーズについて明らかにしていきたい。なお、研究方法としては、市町村に対しては聞き取り調査法を、また高齢者に対するニーズ把握については質問紙調査法を用いることにする。

奨励研究員

研究者名	研究課題	研究概要
冬木春子	仕事と家庭の両立のための育児支援に関する研究	近年、少子化を背景に母親と父親が子育てをしながらも仕事をする事が出来る環境の整備が進められている。本研究では、乳幼児をもつ男女労働者のための仕事と育児両立支援について、量的及び質的な調査を通じて、現状と課題を明らかにしていきたい。具体的には21世紀職業財団や各企業などへのインタビュー調査を行い、そのインタビュー調査をふまえて、乳幼児をもつ親を対象とした質問紙法による調査を行う予定である。

「津市」に対するイメージ調査の試み

東福寺 一郎

1. はじめに

心理学で用いられるテストに「Who am I?」というものがある。これは、「私は」で始まる文章を20通り書かせるだけであるが、これが意外と難しい。早い人であれば、2、3分で書き上げるが、遅い人になると20分たっても書けない場合がある。いずれにしても、「私は女性である」「私は30歳である」というような客観的に確認できる記述（合意反応と呼ばれる）で20通りの文章を作ることは至難であり、途中から（人によっては最初から）「私は他人からやさしいと言われる」「私は涙もろい」など主観的な記述（非合意反応と呼ばれる）が現れてくる。すなわち、自分の内面に目を向けるわけであり、自分自身をどのように見ているのかを確認していくことになる。

筆者は、このテストはいろいろな形に応用できると考えている。例えば、「夫は」「母は」「息子は」「姑は」などという主語で始まる文章を書くことにより、夫婦や家族との関係を見つめ直すことができるし、「日本は」「三重短大は」という主語で始まる文章を書けば、自己とその対象との関係や態度、感情を把握することができるであろう。そこで、三重短大の行政コースの学生を対象に、「津市は」で始まる文章を書かせ、「津市」に対してどのようなイメージや考えを持っているのかを調べてみた。

2. 方法

調査は行政基礎の最終講義日である2001年6月16日に実施された。被験者は、この講義を受講している法経科第一部および第二部の行政コース1年生（1名は2年生）60名（男性7名、女性53名）である。また、質問形式については、津市に来て間もない学生がいることに配慮し、「10答法」とした。すなわち、「津市」で始まる文章を10通り書くことを求めた。インストラクションは「下記に「津市は」という主語が10個ありますので、それに続けて文章を完成させてください。なお、これは皆さんの成績評価には一切関係ありません。」という簡単なものである。回答のための制限時間を設ける必要は特になかったが、15分を目安に回収を行った。

3. 結果

60名の被験者から511の回答があった。1人あたりの平均回答数は8.5個である。また、被験者の出身地別でみると、「津市内」は1人あたり9.1個、「三重県内」は7.7個、「三重県外」は9.1個であった。

回答内容は被験者により様々であり、きわめて簡潔にかかれていたものもあれば、改行をするほどの長文を書いた人もいた。これらを直接相互に比較するのは困難であるため、最も中心的な箇所注目し、かつ意味内容を考慮しながら、同一と思われる内容ごとにまとめた。その結果、3名以上から回答があったものを示したのが表1である。

表1 回答者の出身地域別主要回答内容

	津市内	三重県内	三重県外	全体
回答者数	16	31	13	60
<経済・産業活動>				
企業 会社が多い	0	4	2	6

(人)

金融会社が多い	0	3	0	3
建物が多い	1	3	0	4
田舎 都会的でない	6	3	5	14
活気がない、さびれている	6	12	4	22
津駅が活気がない	1	3	0	4
にぎやかである	2	2	0	4
アスト津がある	1	3	1	5
名物がない	2	1	0	3
デパートが少ない	2	1	1	4
サイエンスシティができる	0	3	0	3
何もない	1	4	1	6
<人口の状況>				
空洞化	1	4	0	5
人口が多い	1	6	0	7
人口が少ない	2	1	3	6
高齢者が多い	3	0	0	3
<教育・文化関連>				
学校が多い	1	2	0	3
三重短大がある	1	10	4	15
大学がある	0	5	1	6
総文など文化施設が多い	2	2	2	6
<行政関連>				
県庁所在地	12	24	11	47
税金の無駄遣い	0	4	0	4
行政、教育など三重県の中心	0	7	1	8
<暮らし向き>				
穏やか、のんびりしている	4	1	5	10
住みやすい	6	2	2	10
人がやさしい	1	0	2	3
物価が安い	2	0	1	3
<自然状況>				
緑が多い	1	1	1	3
自然が多い	4	3	1	8
田園風景	0	3	0	3
海	3	4	1	8
狭い・小さい	3	3	3	9
温暖	3	0	1	4
風が強い	0	2	6	8
<娯楽>				
津祭り・花火大会	4	2	0	6
遊ぶところが少ない	3	2	1	6
<交通事情>				
道路状況が悪い	2	2	0	4
道が狭い	0	0	4	4
交通の便が悪い	3	3	0	6
近鉄が走っている	0	1	2	3

<その他>				
日本一短い名前	3	8	2	13
三重県にある	1	1	1	3
自分が住んでいる	2	0	1	3
合計回答数	90	145	70	305

注) 表中に示した「経済・産業」「人口」「教育・文化」「自然」「行政」「暮らし向き」「娯楽」「交通事情」

「その他」という区分および分類は恣意的なものである。

最も回答が多かったのが「津市は県庁所在地である」という回答であり、全体の78.3%にあたる47名が記述している。これに次ぐものは「津市は活気がない」「津市はさびれている」という内容を含む回答であり、36.7%にあたる22名が記述している。これに「田舎・都会的でない」を合わせると36名(60.0%)が、津市の活気のなさをあげていることになる。一方で、「にぎやかである」という回答も4名からなされている。「津市は三重短大がある」というような回答も15名(25.0%)と相対的に多いが、被験者が現在通学しているという事情があるため、一般化はできない。

また、出身地域によって回答に差異が現れている。そのいくつかをあげてみると、三重短大を含め、「大学がある」という回答が「県内出身者」に多い。確かに、三重県内の9大学・短大のうち4大学が津市内にあるのであるが、おそらく「津市内出身者」にとっては、それが至極当然のことと受け止められているのに対し、県内出身者にとっては進路決定などの際に実感として感じたことなのであろう。自然状況にしても、「津市は温暖である」と回答した4名のうち3名が「津市内出身者」である。一方、「津市は風が強い」と回答した8名のうち6名は「県外出身者」であり、「津市内出身者」は0であった。「自然が多い」については逆に「津市内出身者」が全体の半数を占め、「県外出身者」は1名であった。また、「住みやすい」という回答は「津市内出身者」に多い。

4. まとめ

今回の調査は、冒頭に述べたように「Who am I?」テストの応用として試みられたものであり、回答数も10項目の記述にとどめている。また、回答者の記述内容をすべて取り上げたわけではないので、回答者の意図が必ずしも正確に表現されていないことに留意する必要がある。

しかし、類似した回答をまとめていくことにより、出身地による違いはあるが、本学学生が津市に対して抱いているイメージの一端が明らかにされた。すなわち、県庁所在地ではあるものの、都会というイメージは薄く、活気がなくさびれていると感じられている。しかし、海に面し、自然もまだ残されており、風は強いものの気候温暖で、人情もあるために、住みやすいと考える傾向がある。行政に対しては、文教施設には恵まれている一方で、若者の魅力に乏しく、道路事情も悪いのに、税金を無駄遣いしているという印象を得ているようである。

今後の課題としては、まずこの調査方法にかかわる結果の処理方法を含めた方法論を確立していくことがあげられる。さらに、居住年数や年齢との関係をみていく必要もあるだろう。機会があれば、この点についての追跡調査を行ってみたい。

【受入図書一覧】

本研究室で平成12年10月以降に受け入れた図書は次の通りです。

書名	筆者名
日本で暮らす外国人の子どもたち	(社)自由人権協会
地域から生まれる支えあいの子育て	小出まみ
職員の給与等に関する報告及び勧告	三重県人事委員会
通信白書 平成12年版	郵政省
建設白書 2000	建設省
警察白書 平成12年版	警察庁
女性白書 2000	日本婦人団体連合会
保育白書 2000	全国保育団体連絡会保育研究所
図説 高齢者白書 2000	三浦文夫
平成11年版 女性労働白書 - 働く女性の実状 -	労働省女性局
地域統計要覧 2000年版	地域振興整備公団
地域経済レポート 2000	経済企画庁調査局

労働力調査年報 平成11年	総務庁統計局
社会保障年鑑 2000年版	健康保険組合連合会
アンケート調査年鑑 2000年版	竹内 宏
平成12年度 補助金総覧	財政調査会
地域経済総覧 2001	東洋経済新報社
余暇・レジャー総合統計年報 2000年版	(株)食品流通情報センター
平成12年版 地方財政統計年報	(財)地方財務協会
平成12年版 中小企業政策総覧	中小企業庁
平成11年 地方公務員給与の実態	地方公務員給与と制度研究会
平成11年 地方公務員給与の実態 別冊	地方公務員給与と制度研究会
二十年の軌跡	矢田 宏
グローバリゼーションと地域	福島大学地域研究センター
平成12年度 固定資産概要調書	津市
多様性トレーニングがイト 人権啓発と参加型学習の理論と実践	森田ゆり
平成11年度 津市歳入歳出決算書	津市
平成11年度 津市一般会計・特別会計歳入歳出決算等審査意見書	津市監査委員
平成11年度 決算報告書	津市
平成11年度 津市歳入歳出決算附属書	津市
平成11年度 財産に関する調書(土地及び建物の内訳)	津市
	平成12年3月31日現在
平成11年度 津市外四箇町村伝染病隔離病舎組合会計決算等審査意見書	津市
平成11年度 津市外四箇町村伝染病隔離病舎組合一般会計歳入歳出決算書	津市
平成12年版(2000年) 明石市の環境	明石市環境部環境政策課
平成12年版 国民生活白書	経済企画庁
平成12年版 防災白書	国土庁
平成12年版 運輸白書	運輸省
平成12年版 科学技術白書	科学技術庁
平成12年版 我が国の文教施策(教育白書)	文部省
2000年版 ジェトロ 貿易白書	日本貿易振興会
2001年版 新府省 行政機構図	(財)行政管理研究センター
平成12年版 全国市町村要覧	市町村自治研究会
日本都市年鑑 2000	全国市長会
社会福祉の動向 2000	社会福祉の動向編集委員会
大蔵要覧 平成13年版	大蔵要覧出版社
平成12年度 改正地方財政詳解	自治省財政局長・審議官・課長 他
平成12年度 学校基本調査報告書(高等)	文部省
平成12年度 学校基本調査報告書(初等)	文部省
文化創造をめざす啓発と三重県民の意識の現状	三重県人権問題研究所
第23回市政アンケート調査結果報告書	津市市民生活部市民交流課
平成12年版 三重県環境白書	三重県環境部環境政策課

編集後記

たいへん遅くなりましたが、地研通信の2001年度第1号をお送り致します。今年度は研究員の構成にもやや変動が見られ、12名の研究員のうち5名が生活科学科の教員になりました。地研が設置されてから17年になりますが、従来、研究員の中で法経科教員の占める割合が高く、バランスの悪さを感じておりましたので、この傾向はとても好ましいと思います。また、近年、新しく赴任された教員の方々が研究員として積極的に地域問題研究に取り組まれているために、テーマも健康、福祉、まちづくりなど幅が広がってきました。これも当研究室の力量アップにつながる歓迎すべき現象です。今年度も地研に対するご協力、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。(T)